

中日大辭典

愛知大学中日大辞典編纂处編



中日大辞典

1968年2月1日 初版発行©
1980年5月1日 六刷発行©

編者

発行 中日大辞典刊行会

愛知県豊橋市町畑町1-1 愛知大学内
電話(0532)45-0441

発売 株式会社 燎 原

東京都千代田区神田神保町1-16
電話(03)294-3445 振替東京133489

図書印刷/印刷・製本

編者のことば

発端：昭和初期以前に中国語を学んだ人にとって最大の悩みは教科書・参考書・辞書がすこぶる不備だったことである。

中国にrippana辞典“辞源”“辞海”のあらわれたのはそれぞれ1915年・1937年であった。それととも両者とも文語を対象としたものであって、中国語辞典としてはおそらく最初のものであった周銘三編“国語辞典”（総ページ281の小型のもの）は1922年、“王雲五大辞典”は1930年、“標準語大辞典”は1935年であり、本格的な中国語辞典“国語辞典”の出現は1936年であった。

中国語辞典が出版されたのは、むしろ日本の方がはやく、大正のはじめごろすでに石山福治氏の中国語辞典があった。しかし、それは学生のおたくしが使ってもはなはだ不満を覚えたものであった（1935年同氏は本文1750頁におよぶものを出版された）。その後、昭和年代になってからは、1928年に“井上支那語辞典”、1945年に宮島・矢野氏“ポケット中国語辞典”、1941年に竹田復氏“支那語辞典”など近代的な中国語辞典があらわれて、一応需要にこたえてくれたのであったが、それととも時勢の推移と要求の増大高度化に応じ難くなっていた。

外国語の辞書をつくることは、もとより容易なことではない。明治中葉以来、すでにわが国における西洋諸国語、特に英・独・仏語の辞典がほぼ完備していたのは、わが国におけるそれらの外国語の研究が進んでいたからでもあるが、実はそれらの諸国ではそれぞれの国語の研究が進んでおり、rippana辞典ができていたからだともいえる。

しかし、中国においては従来学者は古文を重んじ、口語を軽んずる風があったので、中国語に対する中国の学者の研究はじゅうぶんでなかった。このような状況の下で石山氏や宮島氏・井上翠氏・竹田復氏らの辞典がよし多くの不備の点があったにせよ、中国語の辞典を編んだということは容易ではなかったことと思う。さはいえ、このような不備不完全な状態は克服されねばならないことを痛感したのであった。

従来、東亜同文書院は常時十数名の日中両国人の中国語教師を擁していたので、中国語辞典をわれわれの手で編むことは可能であり、またその責任もあると感じていた。そこでわたくしはわれわれの手で中国語辞典を編纂することを発起し推進した。編纂方針は井上辞典を出発点とし、これに必要な語彙を補充して現実の要請に応じ得る中国語辞典を作ろうというのであった。編纂業務は教学の余暇全員によって進められた。後に中日事変・太平洋戦争のために業務は停頓したが、敗戦後、敵産として中華民国へ接収されたときは、粗資料カード約14万枚あり、語数としては7-8万語であったろうか。当時の語彙蒐集は次の諸氏によって進められていた。次に記してその労を謝する。

鈴木沢郎 熊野正平 野崎駿平 坂本一郎 影山魏 岩尾正利 内山雅夫 山口左熊 木田弥三旺 金丸一夫 尾坂徳司 外に中国人講師八名(特に姓名を略す)

原稿カード返還：戦後ややおちついた1953年7月愛知大学長(元東亜同文書院大学長)本間喜一氏から、辞典原稿をかせしてもらおうと願出しようと熱心に説かれた。わたしは原稿カード引渡しの際、接収委員鄭振鐸氏に対し「もし事情が許すようになったら、われわれの手でこの辞典を完成させてもらいたい」と口頭ながら申入れてあったことを思い出し、願出で見ることにした。願書は日本中国友好協合理事長内山完造氏に依頼し中国科学院長郭沫若氏に送られた。同氏の斡旋により原稿カードは中国人民保衛世界和平委員会劉貫一氏から「日中文化交流のため改めて日本人民に贈る」という主旨で、1954年9月引揚船興安丸に託して送りとどけられた。受入れの窓口であった日本中国友好協会は、この事業のものとの関係者を招致して協議した結果、ものとの関係者が多く、かつその完成に熱意をもつ愛知大学にこれを委ねることになった。愛知大学では、この意義ある歴史的な事業を完成するため、その任にあたることを決意し、付託にこたえることとなった。

編纂業務の再開：本格的に中日辞典編さん業務が再開されたのは1955年4月であった。再開に当っては編纂委員会が

組織され、わたくしが1933年以来この事業を発起し推進にあたって来た一人であったので編纂委員長を命ぜられ、専任者として元東亜同文書院大学予科教授内山雅夫氏、北京中国大学卒業張祿沢女史、愛知大学中国文学科卒業今泉潤太郎氏らを聘し、兼務専門委員として愛知大学教授桑島信一氏およびわたくしを加え、さらに学内外に協力委員数氏を委嘱し、一応の陣容をととのえた。1957年にはさらに専任者として元外務省通訳官遠藤秀造氏、元NHK海外局宗内鴻氏、東北大学中国文学科特別研究生終了の志村良治氏、愛知大学経済学士杉本見氏らを加え、その後さらに欧陽可亮氏も短期間であったがこれに加わり、編集陣容は充実された。この事業の完成はすべて上述の人人の御尽力によるもので深くその労を謝する次第である。特に内山雅夫氏のこの業務全般にわたっての綿密な企画運営と13年間1日の如きたゆまぬ精進、張祿沢女史、欧陽可亮氏によって多くの疑問が解決され語彙の採否が決定されたこと、今泉氏は途中2年間研究のためこの業務から離れたが、その後の長年月にわたり自発的に協力され、原稿カードおよびケラの整理・漢字索引の研究作成や印刷全般にわたっての注意深い処理などに対して重ねて謝意を表したい。

なお、本学内外の下記諸氏から語彙蒐集の援助を受けたことを記して謝意を表する。

前神戸外国語大学教授(現関西大学教授)坂本一郎氏・前一橋大学教授熊野正平氏・前東北大学教授故野崎駿平氏・松山市西石井渡辺美登里氏・NHK国際局佐藤堅一氏・中国研究所米沢秀夫氏・欧陽可亮氏

以上のうち坂本氏・佐藤氏は数年にわたり多数の新語を寄せられ、渡辺夫人はこの事業を新聞で知られ、年来中国において収録された中国料理に関する語彙多数を送って下さった。中国研究所からは御好意により資料カードを拝借することができた。本学内においては浅井敦・杉本出雲・向山寛夫(現国学院大教授)諸氏から援助を受けたことに対し謝意を表する。

本学学生諸君からも多大の援助を受けた。その人数も多数にのぼるので、一一姓名を記さず、一括してここに謝意を表する。なお、伊藤克子氏には本辞典印刷段階の1966・67年の間根気のいるケラの整理などを極めて正確に処理していただいたことを記して謝意を表する。

このようにして編集は順調にすすめられたものの、事業の大きさに比し編集陣容ははなはだ貧弱といわざるを得なかった。従って語彙の蒐集・選択においても所期の目標に達し得なかったことは残念に思っている。

一方においては幸なことに、五四運動以後大いに進んだ中国における中国語研究は、中華人民共和国成立後は、文字改革の気運が高まり、中国語の研究が急速に発展し、多くの出版物もあらわれ、辞典は“学文化字典”“同音字典”“新華字典”など小字典ながらすぐれたものがあらわれた。この外“機工辞典”その他の多数の専門辞書もあらわれて、豊富な資料が自由に入手することができた。わが国においても香坂・太田氏の“現代中日辞典”・鎌ヶ江氏の“中国語辞典”・倉石氏の“岩波中国語辞典”などが相ついで出版された。われわれのこの“中日大辞典”も以上のものから多大の恩恵を受けたことを記して日中両国の多くの学者諸氏に感謝の意を表する。

上述の如く、内外の事情はこの事業に有利に推移したようであるが、その反対に完成期をさきへ押しやるような事情も少なくはなかった。それは先ず完成期を1961年とした最初の見とおしが甘すぎたこと・中国における文字改革を全面的にとり入れたため多くの手なおし、書き改めを必要としたこと・3千字以上の新旧活字を鋳造したこと・桑島氏が病気のため早い時期にこの陣容から離脱したこと・1963年後半からは経費節約のため編纂陣容を縮小して別途人件費を必要としない鈴木・内山・張・今泉の4名としたことなどで当初予定の二倍以上、すなわち13年を経た今日ようやく完成を見るに至った。

中国からの援助：中国方面からは、1956年2月北京の中国人民対外文化協会より同音字典・簡明字典・中国語文その他の資料の寄贈を受けた。1955年12月中国学術考察団副団長馮乃超氏が愛知大学を訪問され、「為中日兩國文化交流打好堅實的基礎」という題字を下された。1958年4月には中国法律家代表団、1964年6月には中国经济友好訪日代表团、同12月には中国法律家代表団韓幽桐氏がいずれも中日大辞典編纂室を訪れて激励して下さいました。また1966年豊橋市長河合隆郎氏の訪中にあたっては、郭沫若氏は同氏に託して雄渾な墨跡「激濁揚清」を下させて頂いて激励して下さいました。またわたくしが1958年に訪中した時には呂叔湘教授・文字改革委員会在陳氏らから文字改革に関し多くの御教示いただいた。何れ

も感激に堪えない。

編纂印刷資金に対する本学内外の援助：商業的採算に乗りにくいこの事業は、財政上の困難は免れ得なかった。幸にしてこの間 1956 年 7 月には文部省科学助成金機関研究費が交付され、1957 年には朝日新聞社・中日新聞社および某氏(本人の希望により特に名を秘す)から多額の助成金が交付され、他にある二名の方から貧者の一灯なりと称して小額ながら交付されて編集を援助して下さいました。この日中文化交流に理解ある御好意はまことに有難いことであつた。

編纂は以上の如くして 1966 年 4 月には一応完了したのであるが、出版は資金の関係で目途が立たなかつたが、本間名誉学長の数年にわたる奔走は稔り、4 月に日本通運社長福島敏行氏の御好意により多数の予約をいただき、また時あたかも愛知大学創立二十周年に当たるので記念事業の一環としてこの辞典出版を採用することになり、評議会の決議により出版費の大半が保障されたので印刷出版に踏み切つた。その後、朝日新聞社・毎日新聞社からもそれぞれ多数の予約をいただいた。この両新聞社の予約はそれぞれ予約者の名義で中国へ寄贈して中国の好意を謝する予定である。

印刷出版：出版計画はすべて株式会社大安に依託し、印刷は図書印刷株式会社に依頼した。両社ともこの事業の日中文化交流・日中友好的性格に賛同し誠心誠意この辞典の完成に尽力された。株式会社大安は印刷所との交渉・印刷進行に関する計画・校正・予約・販売に関する計画・実施など一切をひき受け、図書印刷株式会社では中国の簡化漢字およびわが国では常用しない旧漢字など 3 千字以上の活字を新鈎するなど多大の犠牲を惜しまず、大安・図書印刷・編纂者は常に緊密な連絡をとって円滑な進行をはかった。

校正は二三校を志村良治・荏司格一・長谷川良一・立間祥介・平田敏子・西山敏雄・井沢忠夫氏らのご協力を願つた。

本間喜一氏は原稿カードを贈って下さつた中国に対して、東亜同文書院大学の最後の学長として、また愛知大学の事業としての出版に対する責任を感ぜられてもろもろ配慮され、ついにこの事業を完成され、その責任を全うされた。すなわちこの事業は全く本間先生の熱意によつてはじまり、御配慮によつて完成したものであることを痛感し、茲にあらためて敬意と謝意を表すものである。

なお、その間 1955 年 11 月に学長に就任し、1959 年 2 月物故された小岩井浄氏も愛知大学の窮乏な財政の中から編纂費を支出するため配慮され、また終始われわれ編纂員を激励し、その完成を期待して種々御尽力下さつた。茲に謹んで感謝の意を表し、御冥福を祈る。

1967 年 11 月

愛知大学中日大辞典編纂処

編纂委員長 鈴木 沢 郎

凡 例

本辞典の構成

i 編者のことば	主要量詞一覧
ii 凡 例	中国政治機構一覧表
iii 索 引	中国重要記念日・二十四節気・旧暦主要節日一覧表
iv 辞典本文	親族関係表
v 日本語索引	北京伝統住宅図解
vi 付 録	度量衡比較表
部首名称一覧	化学元素表
日中字形対照表	中国略図
偏旁簡化表	

1. 本辞典の親字および繁体字・異体字

本辞典は、現に中国で用いられている簡化字 2,238 字を含む合計 7,876 字を親字とする。繁体字(簡化字が簡化される前の字体 2,264 字)と異体字(親字と同音・同義・異形で、1955 年に廃止された 1,055 字)もそれぞれの親字に併記され、総計 11,195 字が記載されている。

字体については、簡化字総表第二版(1964 年 9 月)にもとづいてすべての簡化字を新鑄したほか、印刷通用漢字字形表(1964 年 12 月)・第一批異体字整理表により多くの活字を新鑄あるいは選定して使用してある。

2. 引きかたの根本原則

本辞典では、親字も見出し語も漢語拼音字母による字音のアルファベット順に配列してあるから、求める字の字音がわかっている場合や、求める見出し語の親字の字音がわかっている場合には索引にたよらず、拼音字母によるアルファベットつづりから見当をつけてただちに本文にあたるのが便利である。

ウェード式ローマ字あるいは注音字母(注音符号と呼ばれたこともある)で発音を習得している人は、うら表紙見返しの発音符号対照表で拼音字母のつづりを知ることができる。

字音のわからない親字や見出し語を引くときには、巻頭の部首別画引き索引を用いて引く。

3. 索 引

索引は、243 種の部首の表と、各部首ごとにその部首に属する字を配列した檢字表とからなっている。

A) 部首の表には、字形から所属の部首が容易に判断できるようにとの主旨から、康熙字典以来の伝統的な部首数 214 種にとらわれず、必要な部首を新設したり細分したりして合計 243 種の部首が設定されている。

このうち、一画のなかの、(てん)と丿(折れ)には多くの変形も含まれているので特に注意が必要である。

このように、つとめて引きやすい部首を設定してあるが、それでもなお所属部首の判断に迷う場合があるので、まぎらわしい字については、檢字表で二つ以上の部首に重出させて万全を期してある。

たとえば、[反]は伝統的には部首又に属する字であり、日本の当用漢字の字形では“反”と定められている。これらの点を考慮して、本辞典では、[反]の字を又からでも、ノからでも、一からでも引けるように三つの部首にわたって重出させてある。

また、比較的画数が少なく、かつ、正しい画数のはっきりしない字については、画数計算を多少誤っても引けるように、檢字表で二つ以上の画数にまたがって重出させてある。

たとえば、[扱]は木偏の 3 画であるが 4 画であるかがわかりにくい字であるので、3 画と 4 画に重出させてある。

B) 檢字表では、同一部首に属する字を画数の少ないものから順に配列し、それぞれの字音と辞典本文ページ数を

示してあるから、それによって所要の本文ページを開くことができる。

4. 辞典本文親字の配列

辞典本文の親字は、アルファベット順・声調順、(原則的に)画数順に配列してある。

たとえば、〔爰〕 ài を 〔包〕 bāo より先に……(アルファベット順)

〔哀〕 āi を 〔爰〕 ài より先に……(声調順)

〔艾〕 ài を 〔爰〕 ài より先に……(画数順)

ただし、同つづり・同声調で、字形に共通部分を有する字群は、そのうち画数の最も少ない字のあとに連続して配列してある。

たとえば、〔爰〕〔暖〕〔媛〕〔媛〕〔媛〕〔媛〕はいずれも字音が ài、すなわち同つづり・同声調で、かつ、〔爰〕という形声部を共通部分として有する字群であるので、本文ではこれら各字を〔爰〕のあとにつきつきに配列して処理してある。

各字とも簡化字・正体字を先に掲げ、繁体字や廃止された異体字はそのあとに、次の方法で示してある。

繁体字は簡化字のあとに、・で区切って示し、異体字は()に囲んで示した。

たとえば、〔爰・爰〕において、・爰は繁体字であることを示す。

〔猫(貓)]において、(貓)は廃止された異体字であることを示す。

〔农・農(農)]において、・農は繁体字であることを示し、(農)は廃止された異体字であることを示す。

5. 親字の字音の示しかた

親字の字音は、その字もつすべての字音を拼音字母のアルファベットつづりで示してある。

たとえば、〔血〕 xiè xuè

〔给・給〕 gěi jì

このように、本辞典では各親字の有するすべての字音を、そのうち最も重要な字音のところに集中して示す方式をとっている。その重要度の判断にあたっては、同音字典・新華字典・漢語詞典などの資料に依拠してある。

〈異體字聲音總表初稿〉で廃止された字音は、正しい字音の右に、で区切って細字で示してある。


たとえば、〔疾〕 jí | jì

6. 親字の注釈

親字の注釈は、2以上の字音を有するものについては、1字音ごとに A)、B)、C)……の順序に分けて、それぞれ訳語を与えあるいは解釈を施し、またできるだけ用例を挙げて説明してある。

A)、B)、C)……の下位区分としては、①②③……を、さらにその下位区分としては、ⒶⒷⒸ……を用いてある。

なお、ごく少数ではあるが、〔历・歴・曆〕のように2字以上の別個の繁体字に対して1個の簡化字を定めてある親字を注釈するには、(Ⅰ)(Ⅱ)(Ⅲ)……に区分してそれぞれ注釈を施してある。

たとえば、〔历・歴・曆〕 lì (Ⅰ)〔歴〕①種(ㄛ)種(ㄛ)種(ㄛ)……(Ⅱ)〔曆〕1こよみ、……

注釈の中の用例に用いられているその親字は～の符号で示してある。

たとえば、〔理〕 lǐ という親字の注釈の中の用例に、〔道dào～〕とか〔糸tiáo～〕とか〔有～讲倒jiāngdǎo人〕などとあるのは、それぞれ〔道dào理〕〔糸tiáo理〕〔有理讲倒jiāngdǎo人〕の略示である。

7. 見出し語の注音

見出し語は発音順(アルファベット順・声調順)に配列してあるが、その注音上の約束は次のとおりである。

A) 漢語拼音方案にもとづいて拼音字母で注音してある。たとえば、

〔标布〕 biāobù

〔标车〕 biāochē

〔标船〕 biāochuán

- 〔标单〕 biāodān
 〔标灯〕 biāodēng
 〔标底〕 biāodǐ
 〔标的〕 biāodi
 〔标点符号〕 biāodiǎn fúhào
 〔标店〕 biāodiàn

B) 軽声の処理

軽声の処理は3段階に分け、①場合により軽声となる程度の軽声音節にはそのつづりの前に・を付し、②常に軽声に発せられる音節にはそのつづりの前に・を付し、③常に軽声に発せられる音節のうち、よく用いられる少数特定のものについては、そのつづりの前に・を付し、かつ、声調記号は付さない。すなわち、

1 場合により軽声となるものの例

- 〔成就〕 chéng·jiù
 〔请教〕 qǐng·jiào
 〔推辞〕 tuī·cí

2 常に軽声に発せられるものの例

- 〔肮脏〕 āng·zāng
 〔核桃〕 hé·táo
 〔螃蟹〕 páng·xiè

3 常に軽声に発せられるものうち、声調記号を付さないものの例

- ① 語気助詞 了·le 啦·la 的·de 哪·na 呢·ne 啊·a 呀·ya 哇·wa 吧·ba 吗·ma
 ② 接尾字 着·zhe 了·le 们·men 的·de 地·di 子·zi 儿·er(または·r) 头·tou 么·me
 ③ 量詞のうち 个·ge
 ④ 軽声の場合の 得·de 不·bu
 ⑤ 重疊のための軽声音節 看看 kàn·kàn 哥哥 gē·gē など
 ⑥ 複音単純詞の軽声字 衣裳 yī·shang 葡萄 pú·tao など

なお、軽声は、漢語詞典・同音字典・新華字典・北京話軽声詞匯・普通話軽声詞匯・漢語拼音詞匯などの資料を参照して決定した。

C) 兒化韻の処理

許威漢編著(1959年出版)の〈漢語語音講話〉に述べてある“実際の口語音どおりの表わしかた”を採用して、次のとおり処理してある。

1) 兒化音節のつづりに er を加えるもの

(例)

- i + er → ier 皮 pí → 皮儿 pīer
 ü + er → üer 女 nǚ → 女儿 nǚer
 鱼 yú → 鱼儿 yúer

2) 兒化音節のつづりに r を加えるもの

- a + r → ar 马 mǎ → 马儿 mǎr
 价 jià → 价儿 jiàr
 花 huā → 花儿 huār
 o + r → or 末 mò → 末儿 mòr
 好 hǎo → 好儿 hǎor
 鸟 niǎo → 鸟儿 niǎor
 错 cuò → 错儿 cuòr
 e + r → er 歌 gē → 歌儿 gēr
 节 jié → 节儿 jiér

u + r → ur	股 gū → 股儿 gūr
	猴 hóu → 猴儿 hóur
	球 qiú → 球儿 qiúr
ng + r → ngr	瓢 páo → 瓢儿 pángr
	腔 qiāng → 腔儿 qiāngr
	晃 huàng → 晃儿 huàngr
	楞 léng → 楞儿 léngr
	空 kòng → 空儿 kòngr

③ 兒化音節のつづりの末尾をとって er を加えるもの

(zh, ch, sh, r, z, c, s のあとの)

i + er → er	事 shì → 事儿 shèr
	子 zǐ → 子儿 zèr
ui + er → uer	嘴 zuǐ → 嘴儿 zūer
in + er → ier	信 xìn → 信儿 xièr
un + er → uer	村 cūn → 村儿 cūer
ün + er → üer	裙 qún → 裙儿 qúer

④ 兒化音節のつづりの末尾をとって r を加えるもの

ai + r → ar	牌 pái → 牌儿 páar
	块 kuài → 块儿 kuàar
ei + r → er	味 wèi → 味儿 wèar
an + r → ar	判 pàn → 判儿 pàar
	片 piàn → 片儿 piàar
	短 duǎn → 短儿 duàar
	圈 quān → 圈儿 quàar
en + r → er	盆 pén → 盆儿 péar

D) 見出し語が2とあり以上の発音を有するものの注音

たとえば、〔剝削〕 bāoxiāo, ㊦ bōxuē

〔伯伯〕 bóbó, ㊦ bāi-bai

というようにコンマで区切って示してある。なお、この凡例の14の略語の表で説明してあるように、㊦は文語であることを示し、㊦は方言であることを示す。

E) その他、見出し語注音上の特例

見出し語の中に、変則的あるいは例外的に発音される部分を含むものの注音にあたっては、その部分の注音つづりにアンダーライン——を施してある。たとえば、

〔撇〕 piē-chī この場合、〔耻〕の字音はもともと chī であるから、piē-chī と表音してよさそうであるが、piē-chī のままでは、“第3声(上声)が連続するときは前の上声字は第2声(陽平)のように変調する”という変調の原則のため、piē を pié と変調させて piē-chī と発音されてしまうおそれがある。この語の〔撇〕は、実際にははっきり原声調どおり第3声に発せられる変則的な語であるので、やむなく -chī を -chí として piē-chí と表わし、かつ、-chí にアンダーラインを付してある。

〔四适〕 sì-dì この場合、〔适〕は口語ではもともと dì という字音は用いないが、この場合は実際に sì-dì という語音に対応し用いられているので、その例外的部分にアンダーラインを施してある。

8. 見出し語が場合により省略して用いられる部分を含むときは、その部分を()に囲んで示してある。たとえば、

〔剧本(儿)〕 jùběn(bèr) は、〔剧本〕とも〔剧本儿〕とも用いられることを示し、

〔抗组(织)肢剂〕 kàngzǔ(zhì)zhìjì は、〔抗组肢剂〕とも、〔抗组织肢剂〕とも用いられることを示している。

9. 見出し語が同義語を有する場合の処理

同義語についてはややゆるい定義のしかたをとり、主要な見出し語のあとに、=の符号で集中した上で、一括して訳語を与えあるいは解釈を施してある。

たとえば、〔硫酸〕 liúsuan =〔硃硫(黄)强水〕〔硃磺qiāngshuǐ〕〔硃强水〕硫酸。

とあれば、=のあとの3語はいずれも〔硫酸〕と同義であり、しかもやや俗な用法であることを示している。

なお、この集中処理によって主要見出し語のところへ集中された見出し語には、訳や解釈を施さず、集中されてある見出し語のところを見てもらうように、⇒の符号を付して導いてある。

たとえば、〔硫(黄)强水〕 liú(huáng)qiāngshuǐ ⇒〔硫酸〕

10. 見出し語の注釈

よく児化して用いられ、あるいは、よく接尾字[-子]を付して用いられることのある語には、注釈の前に、[-儿]あるいは[-子]あるいは[-儿、-子]を付し、そのあとに注釈を述べてある。

たとえば、〔根〕 gēn ①[-儿、-子]草根。〔树-〕木の根。

とあれば、〔根〕〔根儿〕〔根子〕のいずれでも植物の根であることを表わし、また、〔树根〕〔树根儿〕〔树根子〕のいずれも木の根の意に用いられることを示す。

名詞あるいは動詞についてその量詞を示すときには、注釈の前に、その量詞を〈 〉に囲んで示してある。

たとえば、〔飞机〕 fēijī 〈架〉飛行機、航空機。

2以上の意味用法を有するものは、①②③……の順序に分けて、それぞれ訳語を与えあるいは解釈を施し、またできるだけ用例を挙げて説明してある。①②③……の下位区分としては、④⑤⑥……を用いてある。

注釈の中に用いられるその見出し語は、字数にかかわらず、～の符号1個を用いて示してある。

たとえば、〔夸嘴〕 kuāzui という見出し語の用例の中に、〔～的大夫没好药〕とあるのは、〔夸嘴的大夫没好药〕の略示である。

訳語のあとに補足的説明を加えるときは、その間に：の符号をおいて区別を明らかにした。

たとえば、〔底座儿〕 dīzuòr いとじり：陶磁器のうら底のザラザラした輪状の部分。

説明の中に中国語を混用するときは、その部分を〔 〕に囲んで用いてある。また、その部分に部分的な訳を添えておきたいときは、そのすぐあとに()に囲んで示してある

たとえば、〔东施效颦〕の説明の中の、……有名な美人西施は〔心 xīn 病〕(瘋のやまい)が持病であったが……

用例、あるいは、説明の中に混用された中国語に、部分的な注音を施すときは、注音を必要とする部分のすぐあとに拼音字母で示してある。

たとえば〔缴〕 jiǎo という親字の注釈の中の用例に、〔～械投降 xiàng〕としてあるのがその1例である。

用例の出典を示すには、訳文の前に()に囲んで明記した。

たとえば、〔落后〕 luòhòu の注釈の中の用例に、〔思想～于实际的事是常有的〕〔毛·实〕……とあるのは毛澤東の〈实践論〉からの引例であることを示している。なお、出典の示しかたの詳細については、この凡例の13を参照されたい。

11. 見出し語が関連語や対照語を有する場合の示しかた

見出し語の意味・用法を理解するについて参考となる関連語や対照語は、→の符号を用いて示してある。

たとえば、〔听写〕 tīngxiě という見出し語の注釈の末尾に、→〔默写 mòxiě ①〕とあるのがその1例である。

12. 見出し語が反対語を有する場合の示しかた

反対語は訳語や解釈のあとに、⇔の符号を用いて示してある。

たとえば、〔土法〕 tǔfǎ の注釈の末尾に、⇔〔洋yáng法〕とあるのがその1例である。

13. 用例出典の示しかた

用例の出典は、用例と訳文との間に()に開んで示してある。

そのうち、古典からの引例の場合には、つとめて、(左传・成公10年)とか(后汉书・光武帝纪)のように具体的に示してあり、中世から近世にかけての白話体小説から採ったものには、作品名から1字をとって、たとえば、水滸伝第57回を(水57)、紅樓夢第14回を(紅14)のように示してある。また、近代・現代の作家の作品から採ったものには、作家名の1字と作品名の1字をとって、たとえば、老舎の四世同堂第三部倫生の第1章を(老・四・倫1)、周立波の暴風驟雨を(周・暴)のように略示してある。

(出典略示一覧)

毛・実	毛澤東・実践論	艾・百	艾蕪・百煉成鋼
毛・矛	“・矛盾論	馮・苦	馮德英・苦菜花
毛・新	“・新民主主義論	高・玉	高玉宝・高玉宝
毛・文	“・文芸講話	孔・新	孔歌・新兒女英雄伝
魯・Q	魯迅・阿Q正伝	李・野	李英儒・野火春風鬪古城
梅・舞	梅蘭芳・舞台生活四十年	梁・紅	梁斌・紅旗譜
茅・子	茅盾・子夜	羅・風	羅丹・風雨の黎明
茅・林	“・林家舖子	馬・呂	馬烽・呂梁英雄伝
茅・霜	“・霜葉紅似二月花	曲・林	曲波・林海雪原
老・駱	老舎・駱駝祥子	楊・青	楊沫・青春之歌
老・四	“・四世同堂	徐・平	徐光耀・平原烈火
老・方	“・方珍珠	元	元雜劇
老・茶	“・茶館	革廂	革解元・西廂記諸宮調
丁・我	丁玲・我在霞村的時候	王廂	王実甫・西廂記
丁・太	“・太陽照在桑乾河上	三	三国演義
巴・滅	巴金・滅亡	水	水滸伝
巴・家	“・家	西	西遊記
趙・小	趙樹理・小二黑結婚	金	金瓶梅
趙・才	“・李有才板話	儒	儒林外史
趙・庄	“・李家莊的變遷	紅	紅樓夢
李・引	李広田・引力	鏡	鏡花縁
周・暴	周立波・暴風驟雨	兒	兒女英雄伝
周・上	周而復・上海的早晨	官	官場現形記
柳・創	柳青・創業史	老	老殘遊記

14. 略語の表

同上、	すぐ上の見出し語に同じ。	西	西北方言。	軍	軍事。
同下、	すぐ下の見出し語に同じ。	吳	吳方言。	商	商業。
同前、	直前の語に同じ。	蘇	蘇州語。	農	農業。
☒	文語、文語的用法	滬	上海語。	工	工業、工学
古	古白話。	南	南方語。	機	機械。
旧	旧書翰文用語。	福	福建語。	土	土木。
公	旧公文用語。	広	広東語。	建	建築。
成	成語、熟語。	梵	梵語。	紡	紡績。
語	ことわざ。	朝	諸朝 朝代名。	織	織物。
歇	歇後語(しゃれことば)	史	歴史、史実。	染	染色、染料。
喻	比喻。	書	書名。	算	算法、数学。
転	転用。	人	人名。	理	理科、物理。
俗	俗語、俗語的用法。	地	地名、地理学。	電	電気。
接	接接(接)用語。	動	動物。	天	天文、気象。

謙	謙称、謙遜語。	魚介	魚介類。	生理	生理学。
敬	敬称、敬語。	鳥	鳥類。	医	医学。
馬	馬り語。	虫	虫類。	中医	中国医学。
擬	擬声語、擬態語。	植	植物。	薬	薬物、薬学。
音訳	音訳語。	鉱	鉱物、鉱業。	化	化合物、化学。
音義訳	音義訳語。	度	度量衡。	美	美術。
方	方言。	哲	哲学。	色	色名。
京	北京語。	仏	仏教。	音	音楽。
北方	北方語。	法	法律。	劇	演劇。
東北	東北方言。	経	経済。	因	スポーツ。

15. 表紙題字は曹全碑から採集した。

索引

索引の説明

部首の表

部首別画引き検字表

中日大辞典

索引の説明

この索引は、部首の表と部首別画引き検字表とからなっている。

A) 部首の表について

1. 部首の種類は、所要の字を見た感じによってなるべく容易に検索できるようにとの観点から、旧来の部首とその約東ごとにとらわれず、243種の部首を設定してある。

たとえば、ヨ(月)、厶(身)、勹(易)などの部首を新設したり、リと刀、人とイ、彳と水、扌と手、川と氵、豸と犬、宀と火、支と攴、月と肉、日と𠂇、衤と衣 などをそれぞれ独立させたりした。

2. 部首の排列は、中国の簡化字総表と印刷通用漢字字形表に示されている字形にもとづく画数の順に排列してある。同画数の部首については五起筆の順、すなわち、第1画が

てん、(一) (丨) (丶) (㇇) (㇀) (㇁) (㇂) (㇃) (㇄) (㇅) (㇆) (㇇) (㇈) (㇉) (㇊) (㇋) (㇌) (㇍) (㇎) (㇏) (㇐) (㇑) (㇒) (㇓) (㇔) (㇕) (㇖) (㇗) (㇘) (㇙) (㇚) (㇛) (㇜) (㇝) (㇞) (㇟) (㇠) (㇡) (㇢) (㇣) (㇤) (㇥) (㇦) (㇧) (㇨) (㇩) (㇪) (㇫) (㇬) (㇭) (㇮) (㇯) (ㇰ) (ㇱ) (ㇲ) (ㇳ) (ㇴ) (ㇵ) (ㇶ) (ㇷ) (ㇸ) (ㇹ) (ㇺ) (ㇻ) (ㇼ) (ㇽ) (ㇾ) (ㇿ) (ㇿ)

のとれて始まっているかによって順序を定めてある。さらに、同画数・同起筆の部首については2画め(以下3画め、4画め)が てん、よこ、たて、はらい、折れ のどれであるかによって順序を定めて排列してある。

たとえば、十 厶 はいずれも2画で同画数の部首であるが、筆順では第1画はどちらも よこ であるものの、第2画は十がたて、厶ははらいであるので、十を前に 厶を後に排列してある。また、禾と戊では画数はいずれも5画で同画数であるが、筆順では禾が はらい、よこ、たて、㇇、㇀の順であり、戊は はらい、よこ、折れ、㇇、㇀の順であるので、禾を前に戊を後に排列してある。

3. 下に掲げる部首の画数は、簡化字総表・印刷通用漢字字形表の字形にもとづき、次のように数えてある。

言 言は2画	食 食は3画	牙 牙は4画	玄 玄は5画	鳥 鳥は5画	舛 舛は6画	魚 魚は8画
匚 匚は2画	易 易は3画	𠂇 𠂇は4画	𠂇 𠂇は5画	𠂇 𠂇は5画	𠂇 𠂇は6画	骨 骨は9画
𠂇 𠂇は2画	馬 馬は3画	貝 貝は4画	𠂇 𠂇は5画	𠂇 𠂇は5画	𠂇 𠂇は7画	鬼 鬼は9画
ム ムは2画	糸 糸は3画	見 見は4画	龍 龍は5画	麥 麥は7画	鹿 鹿は11画	鹿 鹿は11画
卓 卓は2画	糸 糸は3画	長 長は4画	𠂇 𠂇は5画	𠂇 𠂇は6画	𠂇 𠂇は7画	𠂇 𠂇は12画
邑 邑は2画	示 示は4画	𠂇 𠂇は4画	𠂇 𠂇は5画	齊 齊は6画	豕 豕は7画	豕 豕は7画
月 月は3画	玉 玉は4画	氏 氏は4画	𠂇 𠂇は5画	衣 衣は6画	𠂇 𠂇は7画	𠂇 𠂇は7画
走 走は3画	王 王は4画	風 風は4画	𠂇 𠂇は5画	臣 臣は6画	高 高は7画	鼠 鼠は13画
𠂇 𠂇は3画	車 車は4画	母 母は4画	内 内は5画	𠂇 𠂇は6画	龜 龜は7画	龜 龜は7画
門 門は3画	比 比は4画	水 水は4画	金 金は5画	頁 頁は6画	齒 齒は8画	齒 齒は8画
瓜 瓜は3画	瓦 瓦は4画	瓜 瓜は5画	瓜 瓜は5画	至 至は6画	𠂇 𠂇は8画	𠂇 𠂇は8画

B) 部首別画引き検字表について

1. この索引は、簡化字をはじめとし現に中国で用いられている字体のほか、繁体字・異体字、さらに日本と中国の字体が異なる場合には当用漢字をも掲げて参考に供し、それぞれの字の字音と辞典本文の記載頁が検索できるように編集されている。なお、二つ以上の字音を有する字については、最初に掲げている字音のところに記載が集中されている。たとえば、圈 という字について検字表の38ページに 圈 quán juān 1174 とあるのは、圈についてのすべての記載が1174ページの quán のところに集中されていることを示している。

2. 索引の排列は、部首の表所載の243種の部首に属する字をそれぞれの部首ごとに画数順に排列してある。

3. 字の左横の・はその字が繁体字であることを示し、()で囲まれた字は異体字であることを示す。

また、日・中の字体が異なるため参考として日本の当用漢字をも掲げるときにはその右肩に△符号を付してある。たとえば、淺 1130 とあるのは、淺は繁体字であって現在は用いられず、1130ページに現在の正しい字体を掲げてすべての記載がなされていることを示し、(慾) yù 1784 とあるのは、慾は異体字であって現在は用いられず、1784ページに現在の正しい字体を掲げてすべての記載がなされていることを示し、儉 jiǎn 684 とあるのは、この字が日本の当用漢字であって中国とは字体が異なっており、684ページに中国の正しい字体を掲げてすべての記載がなされていることを示している。

このうち、△符号は次の第4項でも他の意味に用いられていてまぎらわしいが、日・中の字体が異なる場合の日本の当用漢字は、索引で参考のために掲げてあるだけで、辞典本文の記載でははずされているので、その区別は本文の方でできるようになっている。

4. 簡化字によって簡化されるべき字であっても、簡化字総表に記載されていない文字については、簡化された場合の偏数と簡化されないままの画数との2箇所旧字形にも△符号を付して掲げてある。

たとえば、鏡[△]は[△]の10画と13画に、蹠[△]は[△]の5画と10画に重複して掲げてある。

なお、本項の△符号は第3項の△符号と同形式でまぎらわしいので注意を要することは前述のとおりである。

5. 見た感じで二つ以上の部首に入れておこうが検索に便利であると思われる字は、できるだけそれぞれの部首に重出させてある。

たとえば、反は又、ノ、一の3部首に、克は十、儿の2部首に重出させてある。

6. 画数のまぎらわしい字は、多少まちがってもひけるようにできるだけ重出させてある。

たとえば、肺は月4画、5画に、扱は木3画、4画に重出させてある。

7. 比較的画数が少ない字で、どの部首に所属するのか判断がつかぬような字や、習慣上二通り以上の筆順がある字は、できるだけ、一、丨、ノ、マの各部首に重出させてある。

たとえば、为は、マ、カの3部首に、凹はマ、丨、丨の3部首に重出させてある。

部首の表

一画	
1 丶(丶)	八は18
2 一(一)	高は229
3 丨	
4 ノ(丿)	
5 ㇀(乙フ)	
二画	
6 冫(冫)	八は18
7 宀(宀)	高は229
8 ㇀(㇀)	
9 冫	三画
10 讠(言)	
11 二(二)	
12 十(十)	
13 厂	
14 匚(匚)	
15 卜(卜)	虎は177
16 冂(冂)	
17 冂(冂)	刀は36
18 八(八)	
19 人(人)	イは22
20 爻(爻)	
21 气(气)	
22 亻(亻)	
23 夕(夕)	刀は36
24 勹	
25 几(几)	爻は125
26 儿(儿)	

27 匕(匕)	比は100
28 矛(矛)	
29 又(又)	
30 廴(廴)	
31 厶(厶)	
32 冂(冂)	
33 冂(阜)左	
34 冂(邑)右	
35 凵	
36 刀 冂は17	夕は23
37 力	
38 了	
三画	
39 氵(水)	127
40 忄(心)	88
41 艹(艹)	75
42 宀(穴)	129
43 广(麻)	233
44 辶(辶)	鹿は234
45 干(干)	
46 土(土)	
47 土	
48 工(工)	14匚
49 艹(艹)	艹
50 大(大)	
51 升(升)	
52 尢(尢)	
53 寸	
54 戈(戈)	99
55 扌(扌)	113
56 扌(扌)	
57 冂(冂)	
58 口	

59 口	
60 巾	
61 山	ム⇒31ム
62 川(川)	82
63 彳(彳)	186
64 彡	
65 夕	
66 冂(冂)	
67 久(久)	
68 彡(彡)	96
69 饣(饣)	
70 卩(卩)	
71 尸	
72 弓	
73 己(己)	
74 巾(巾)	
75 小(小)	7は41
76 女	
77 彡(易)	彡⇒30彡
78 马(馬)	
79 子	冂左⇒33 冂右⇒34
80 彡(彡)	
81 彡(彡)	
82 川(川)	62
四画	
83 火(火)	85
84 斗	
85 火(火)	83
86 文(文)	彡⇒44彡
87 方	
88 心(心)	忄は40
89 户(戸)	

90 示(示)	
91 韦(韋)	
92 王(王)	王⇒49王
93 夕(夕)	170
94 木	
95 支(支)	
96 犬(犬)	68
97 歹	
98 车(車)	
99 戈(戈)	54
100 比(比)	比は27
101 瓦(瓦)	
102 牙(牙)	
103 止	
104 支(支)	女は115
105 𠂔(𠂔)	
106 日(日)	日⇒56日
107 贝(貝)	
108 见(見)	见⇒145见
109 父(父)	内⇒147
110 爻(爻)	爻は20
111 牛(牛)	
112 气(气)	气は21
113 手(手)	扌は55
114 毛	
115 女(女)	支は104
116 长(長)	
117 王(王)	王⇒49王
118 片	片⇒66片

119 斤	
120 爪(爪)	
121 月(月)	肉は179
122 氏(氏)	
123 欠	
124 风(風)	
125 爻(爻)	几は25 彡⇒162 彡⇒80彡
126 母(母)	
127 水(水)	氵は39
五画	
128 𠂔(𠂔)	
129 穴(穴)	宀は42
130 立(立)	辛は193
131 疒	
132 玄(玄)	
133 衤(衤)	衣は167
134 夫(夫)	示⇒90示 玉⇒92玉
135 北	比⇒100比 瓦⇒101瓦 牙⇒102牙
136 艹(艹)	
137 甘	
138 石	
139 龙(龍)	
140 业(业)	彡は236
141 𠂔(𠂔)	
142 只(只)	
143 目(目)	目は145